

中島公園 未来への魅力継承プラン（案）



札幌市建設局みどりの推進部
令和7年1月

【中島公園 未来への魅力継承プラン（案） 目次】

1	プランの目的・位置づけ	p.1	6	目指す方向性	p.4
2	公園の概要	p.1	7	取組の方向性	p.4
3	公園の魅力	p.3	参考1	関係者ヒアリング調査	p.8
4	公園の課題	p.3	参考2	実証実験	p.10
5	コンセプト・公園のあり方	p.4	参考3	他自治体事例調査	p.15

1 プランの目的・位置づけ

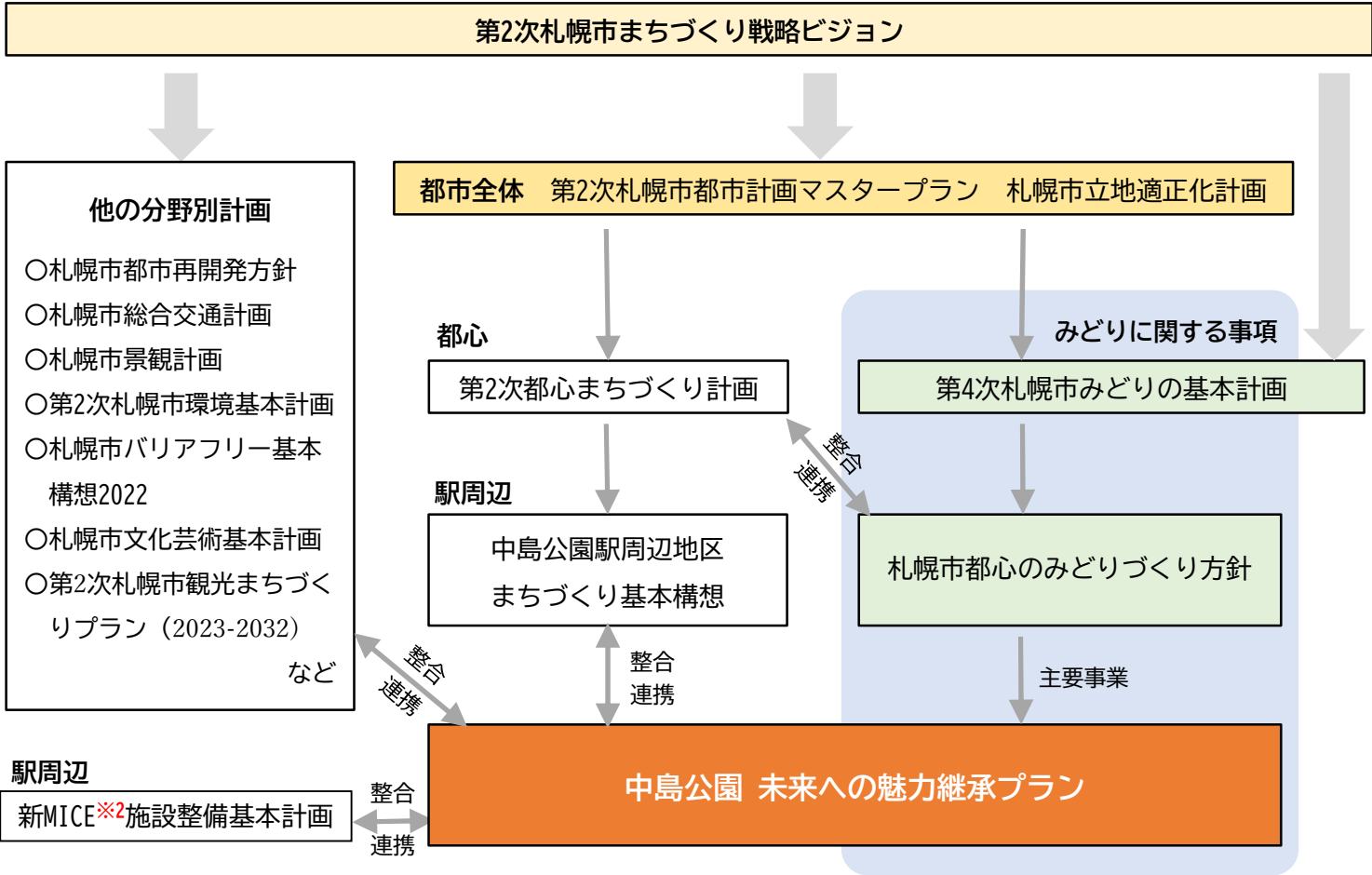
① 目的

中島公園周辺エリアについて、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、「市民の憩いの場や国内外からの来訪者を含めた交流の拠点として、都心部の貴重なみどりの魅力を向上させるとともに、集客・交流機能や芸術・文化機能の強化を図」る高次機能交流拠点※1として位置付けた。

また、札幌市都心のみどりづくり方針では、重点エリアと位置付け、この取組として「中島公園の魅力アップに向けた機能の強化」を図ることとした。

このような背景から、『中島公園 未来への魅力継承プラン』は、公園の長い歴史を踏まえつつ、公園及びその周辺等の現況、そして、周辺の開発等による将来的な来訪者の増加を見据え、更なる魅力アップや魅力発信、これらを支える連携・協働体制など、ソフト面を中心として未来に魅力を継承するための目指す方向性や取組等を示すことを目的としている。

② 位置づけ



※1 高次機能交流拠点：産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、札幌の魅力と活力の向上を先導する高次な都市機能が集積する拠点

※2 MICE：多くの集客が見込めるビジネスイベントなどの総称で、Meeting（企業内会議）、Incentive travel/tour（報奨旅行）、Convention（国際会議・学会会議）、Event/Exhibition（イベント/展示会）の頭文字をとった造語

2 公園の概要

① 『中島』の由来

- ・中島公園の『中島』という名の由来は、豊平川の流によって生まれた地形的な特徴に関連している。
- ・定山溪の溪谷を流れ下ってきた豊平川は、藻岩山の脇に差し掛かる辺りで川幅を広げ、広大な扇状地を形成した。札幌のまちはその肥沃な扇状地に築かれ発展してきた。
- ・豊平川の流路は、本流だけでなく様々な分流があったと言われているが、明治の初めにはその分流である鴨々川と本流に挟まれた地域を「鴨々中島」と呼び、本流の対岸の地域である「中島(なかのしま)、後の中の島」と区別されていた。『中島』は「鴨々中島」に由来している。

② 沿革等

名 称		中島公園
種 別		総合公園
所在地		札幌市中央区中島公園、南14条西5丁目、南15条西4丁目
面 積		236,295㎡
現在の主な構成要素	子ども向け施設	中島児童会館、こども人形劇場こぐま座、遊具、鴨々川水遊び場
	歴史・文化施設	豊平館（国指定重要文化財）、八窓庵（国指定重要文化財）、札幌コンサートホールKitara 北海道立文学館、天文台
	運動施設	中島体育センター、中島庭球場
	水辺・庭園	鴨々川、菖蒲池、日本庭園
	記念碑等	彫刻、碑像、モニュメント（計14か所）
沿 革	明治 4(1871)年	鴨々中島に豊平川から流送した木材を貯める貯木場（元右衛門堀、後の菖蒲池）を設置
	明治20(1887)年	太政官布達（国内初の公園制度）による札幌初の公園「中島遊園地」として整備 北海道物産共進会を開催、エドウィン・ダンの設計による中島遊園地競馬場を開設
	明治21(1888)年	料亭・大中亭が開店、その後数店が開店し賑わいをみせる
	明治22(1889)年	岡田花園が開園、水天宮の社殿を建立
	明治40(1907)年	東京市の技師・長岡安平が公園を設計、札幌招魂社（札幌護国神社）を建立
	明治43(1910)年	「中島公園」に改称
	明治45(1912)年	彌彦（伊夜日子）神社を建立
	大正 7(1918)年	開道50年記念博覧会を開催、馬鉄が電車化され中島公園まで延伸、中島球場を整備
	大正 9(1920)年	本格的なスケートリンクを整備
	大正12(1923)年	製氷場を水泳プールとして整備
	昭和 3(1928)年	NHKラジオ放送局が開局し、北海道初のラジオ放送開始
	昭和 6(1931)年	国産振興北海道拓殖博覧会を開催
	昭和24(1949)年	米軍からかまぼこ型兵舎の払下げを受け中島児童会館が開館
	昭和29(1954)年	中島スポーツセンターが開館、第9回国民体育大会秋季大会を開催
	昭和32(1957)年	総合公園として告示
	昭和33(1958)年	豊平館を園内に移築、北海道大博覧会を開催、中島子供の国が開園、札幌市天文台を開設
	昭和37(1962)年	札幌神社（北海道神宮）例大祭（札幌まつり）の露店等を設置
	昭和38(1963)年	日本庭園が開園
	昭和39(1964)年	豊平館が国の重要文化財に指定
	昭和46(1971)年	八窓庵を園内に移築（国の重要文化財指定は昭和25年） 地下鉄南北線が開通し中島公園駅・幌平橋駅が開駅
	昭和51(1976)年	札幌市こども人形劇場こぐま座を開設
	昭和55(1980)年	冬のスポーツ博物館が開館
	昭和57(1982)年	歩くスキーコースを設置
	平成元(1989)年	日本の都市公園100選に選定される、北海道マラソンのゴール地点となる
	平成 2(1990)年	さっぽろ雪まつり第4会場となる
	平成 7(1995)年	北海道立文学館が開館、中島公園再整備基本計画に基づく大規模な再整備開始
	平成 9(1997)年	札幌コンサートホール Kitaraが開館
	平成19(2007)年	日本の歴史公園100選に選定される
	平成30(2018)年	新MICE施設整備基本計画を策定
	令和 3(2021)年	中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想を策定
	令和 4(2022)年	Pokemon GO Fest 2022 Sapporoを開催

③ 位置・立地特性

- ・中島公園は地下鉄大通駅から南へ約1.5kmの位置にある。南北両端が地下鉄駅（中島公園駅、幌平橋駅）に接続し、西側の市電路線にも近い。
- ・北側は、札幌駅前通と接続し、繁華街すすきのとつながっている。隣接地ではMICE施設の整備計画があるとともに、ハイグレードホテル等の開発の動向がみられるなど、将来的な来訪者の増加が見込まれる。
- ・南側と西側は住宅地につながり、東側は規模の大きな集合住宅やホテルが数多く立地している。また、東側には豊平川緑地があり、中島公園とともに市民の日常的なレクリエーションの場になっている。

④ 各種指定状況

○用途地域※3

- ・中島公園は都市計画法における「第一種住居地域」に指定されている。
- ・公園の北側と東側は「商業地域」、南側と西側は「第一種住居地域」である。

○立地適正化計画※4

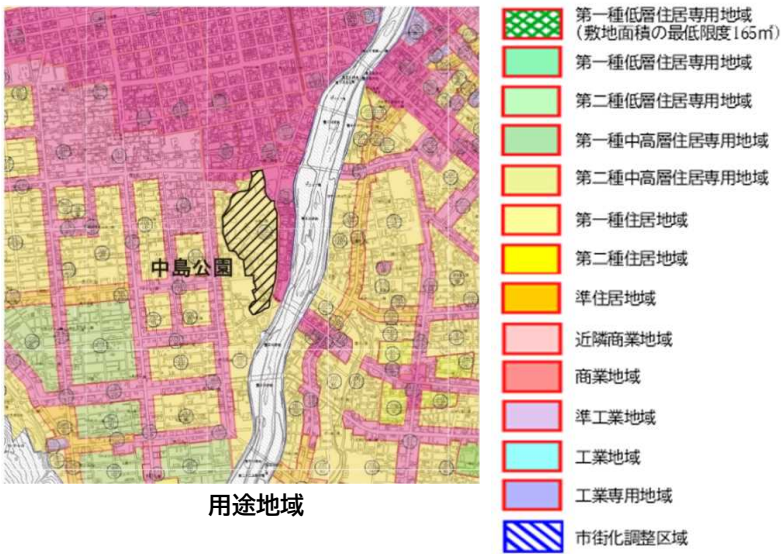
- ・公園の北側は都市の魅力を高める都市機能等を誘導する「都市機能誘導区域（都心）」、公園及びその周辺は「集合型居住誘導区域」に指定されている。

○避難場所

- ・中島公園は、災害発生時の「一時避難場所」であり、大規模な火事から身を守るための「指定緊急避難場所」にも指定されている。また、中島児童会館は基幹避難所を補完する施設である「地域避難所」に指定されている。

⑤ 園内施設・公共交通

- ・園内の代表的な施設として、豊平館、八窓庵、札幌コンサートホールKitaraをはじめとした歴史・文化施設や、中島児童会館、こども人形劇場こぐま座等がある。
- ・公園周辺の公共交通として、地下鉄南北線、市電山鼻線、バス路線がある。
- ・地下鉄南北線は、公園北側に「中島公園駅」、南側に「幌平橋駅」があり、中島公園駅周辺は公園の事実上のエントランスとなっている。
- ・市電山鼻線の停留場「中島公園通」は、豊平館、天文台、Kitaraへの最寄り駅となっている。
- ・バス路線は、公園に接してバス停が3か所あり、特にパークホテル近傍の「中島公園入口」はこの位置が公園入口であったことを物語っている。



⑥ 利用状況（令和元年度利用者アンケート（n=322））

○利用目的

- ・「散歩や休養」が顕著に多く、次いで「花、庭等の鑑賞」が多い。憩いの場として最も利用されていることがわかる。次に「子供を遊ばせる」が多く、子どもの遊び場としても重要な役割を果たしている。

○利用時間

- ・昼食時は利用者が極端に少なくなる傾向がみられた。
- [来園時間]
午前中は11:00～11:30をピークに、10:00～12:00にわたってコンスタントに来園がある。その後、12:30～13:00は来園が極端に少なくなるものの、13:00～13:30が1日のピークの来園者となる。
- [退園時刻]
12:00～12:30が最も退園者が多い。

○好きな場所やよく行く場所

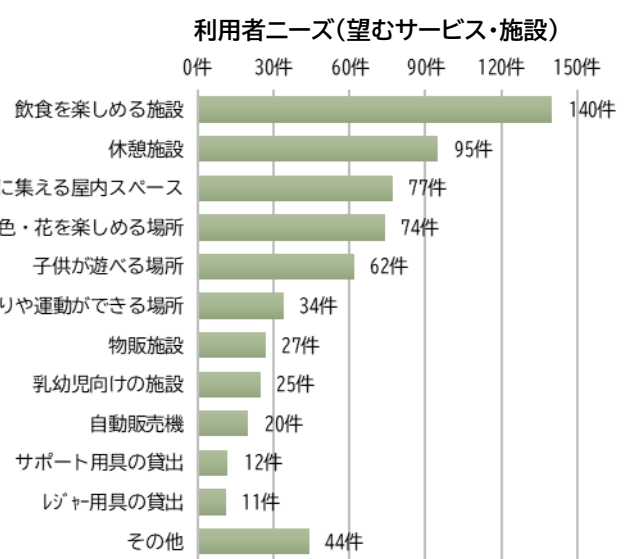
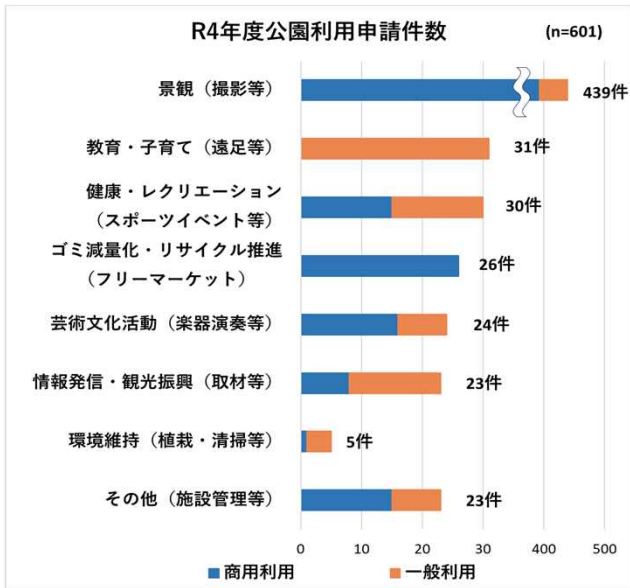
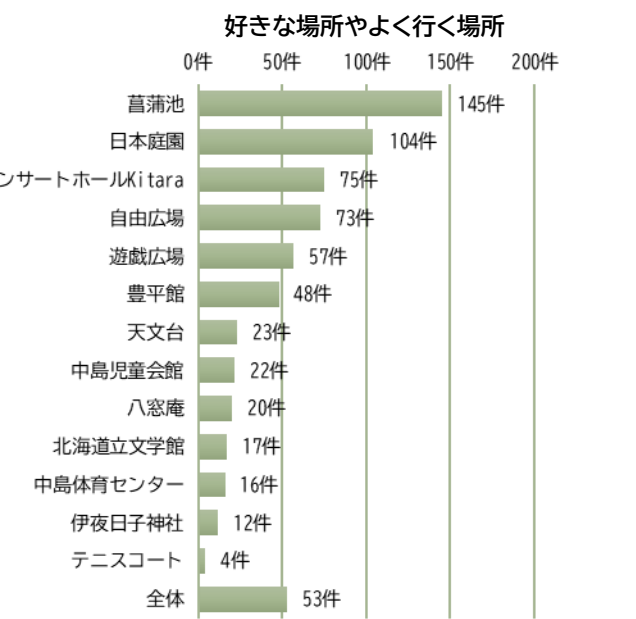
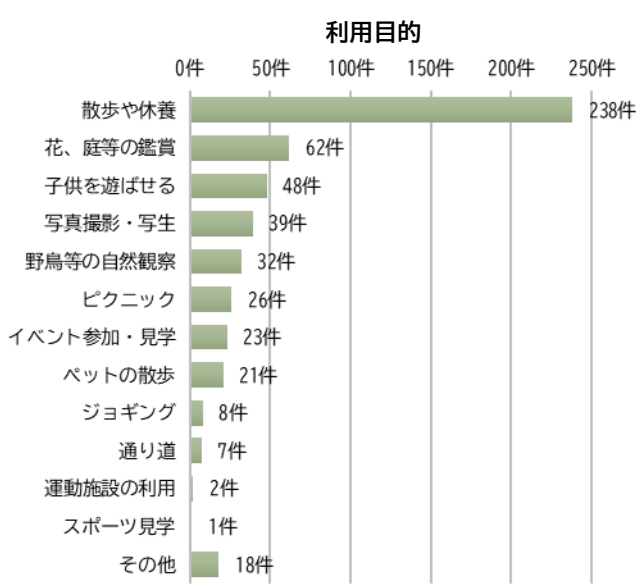
- ・「菖蒲池」が最も多く、次いで「日本庭園」が多い。利用目的として「散歩や休養」が顕著に多いことと符合しているといえる。
- ・「Kitara」の催し・プログラムを目的とする来園者も多い。「自由広場」もほぼ同数であり、交流・賑わいの場として活用されていることがうかがえる。

⑦ 利用者ニーズ（令和元年度利用者アンケート（n=322））

- ・回答者が望むサービス・施設で顕著に多かったのは、飲食を楽しめる施設であった。次いで「休憩施設」が多い。

⑧ 公園利用申請件数（令和4年度（n=601））

- ・撮影等の景観を目的とする申請が圧倒的に多く、写真撮影関係企業が多数を占めている。



※3 用途地域：都市計画法に基づき、住居や商業・工業など都市の諸機能を適切に配分するための土地利用上の区分を行い、建物の用途や規模などの規制を通して、目的にあった建築物を誘導しようとするもの
※4 立地適正化計画：今後の人口減少下において、市街地区分に応じた人口密度の適正化や、公共交通を基軸とした各種都市機能の適切な配置を図るための計画

3 公園の魅力

- ・中島公園は、都心部に立地し、広大な緑地と歴史性を持つ都市公園※5である。約23万㎡の敷地には自然豊かな水と緑の空間が広がり、都心部にいながら四季折々の風景に心を奪われていく。
- ・明治40年、公園設計の第一人者であり公園行政のパイオニアといわれる長岡安平により、「池泉回遊式庭園※6」として設計された。様々な変遷があるものの、現在も形をとどめその設計思想が活かされている。
- ・市民の日常的な憩いの場であるとともに、多彩な催事・イベントが開催される。芸術・文化が身近に感じられ、海外からの訪問者へも楽しみを提供する。

① 四季折々の豊かなみどり

- ・中島公園のみどりは、春のサクラや若々しい新緑、夏の生き生きとした青葉、秋の紅葉したイチョウ並木や冬の樹形など、四季折々にそれぞれ違った表情をみせる。園路沿いの並木や水辺の樹木、日本庭園やバラ園など、場所に応じて美しい姿があり、見る者を飽きさせず、知らず知らずのうちに時間が経過していく。
- ・100年以上の歴史に育まれた5,000本余りの樹木が来訪者を優しく歓迎し、鴨々川や菖蒲池の水辺とのコントラスト※7が見る者を引き込み、印象的な景観を形づくっている。

② 歴史の重みと風格

- ・開拓期の貯木場が地元住民の要望から札幌初の公園「中島遊園地」となり、100年以上が経つ。中島橋は当時の正面入口であり、鴨々川は蛇行する昔の姿を現代に残す。ケヤキやエゾヤナギ等は今や大木となり見る者を圧倒する。
- ・長岡安平が自然の風致※8を織り込んで「池泉回遊式庭園」として設計した。池の水景・借景や藻岩山への眺望は今も絶景である。
- ・国指定の重要文化財である豊平館や八窓庵をはじめ、園内や周辺には数々の歴史的資産を有し、「日本の歴史公園百選」に選定されている。

4 公園の課題

利用環境に関すること

- ・樹木の過密化・大径化により、鬱蒼としていて暗く、立ち寄りにくい場所がある
- ・ベンチやテーブルが少ないなど、休憩場所が足りない
- ・散策路がわかりづらく、利用しづらい
- ・動線が車椅子利用者に配慮し切れていない
- ・案内板・誘導サインが見づらく、歩行者が気づきにくい
- ・2か国語と5か国語の誘導サインが混在している
- ・時間帯によっては駐輪場が飽和状態である

※5 都市公園：都市計画法に基づき、地方公共団体が都市計画施設として設置した公園

※6 池泉回遊式庭園：池を中心に配し、その周囲を回遊して鑑賞する庭園

※7 コントラスト：明るさや鮮やかさなどの差



園路沿いのサクラ(春)



菖蒲池から望む豊平館(夏)



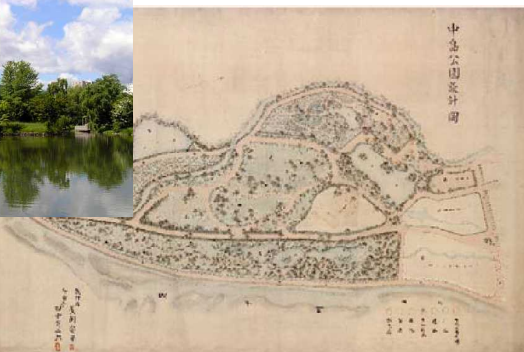
イチョウ並木(秋)



冬の樹形



藻岩山への眺望と借景



長岡安平の設計図

施設・敷地に関すること

- ・北入口広場が寂しい印象があり、公園の顔に相応しい設えとは言いがたい
- ・広場のような場所が多く、公園を活用し切れていない
- ・管理事務所の場所がわかりづらく、認知されていない
- ・施設・設備等の老朽化がみられる
- ・一部の施設が、まるで公園に背を向けているような建て方である
- ・飲食等の施設が利用しづらい

③ 市民の憩い・交流・賑わいの場

- ・都心部にありながらその喧騒から一線を画す中島公園では、豊かなみどりに囲まれながら、市民の散歩や休養など日常的な憩いの場として思い思いの時間を過ごすことができる。
- ・一方、北海道神宮例大祭(札幌まつり)をはじめ、多彩な催事・イベントも開催され、四季を通じたレクリエーションの場という役割も発揮し、賑わいをみせる。
- ・明治20年に北海道物産共進会が開催されて以来、現代においても当時と同様、市民の日常利用とともに、交流・賑わいの場であることに変わりはない。



北海道神宮例大祭



札幌コンサートホール Kitara



山内壮夫 彫刻群



豊平館



八窓庵

情報発信に関すること

- ・様々な魅力あふれる中島公園の良さを伝え切れていない
- ・各施設のイベントを含む公園全体を網羅した情報発信がない
- ・施設ごとに指定管理者※9が異なり、一体的な情報発信が難しい
- ・公園周辺のマップが様々な作成されているが、あまり知られていない
- ・管理事務所が利用者の少ない場所にあり、情報発信する場になっていない

※8 風致：自然の風景などがもつ趣や味わい

※9 指定管理者：地方自治法に基づき、地方公共団体に指定された公の施設の管理を行う者

※10 中島公園地域コミュニティ推進協議会：中島公園内の施設管理者や近隣ホテルの事業者を構成員として公園の利活用を推進する協議会

④ 芸術・文化の拠点

- ・中島公園は、古くから芸術・文化の拠点として市民に親しまれてきた。
- ・平成9年に開館した札幌コンサートホール Kitaraは道内初の音楽専用ホールであり、音響は世界水準といわれ、数多くの著名な演奏家が来演している。
- ・園内には世界的な彫刻家である山内壮夫や安田侃の彫刻・モニュメント等が立ち並び、そのたたくまいは来訪者の目を和ます。
- ・公園周辺にも渡辺淳一文学館やシアターZ00などが立地しており、まさに公園が拠点となって芸術・文化活動の広がりをみせている。

⑤ 国際都市としてのおもてなしの場

- ・海外からの来訪者は、その土地に根付いた文化を感じるものを求めるといわれる。日本庭園は和の心でおもてなしし、石庭や灯籠、鳥のさえずりや水の流れなど風情のある特有の光景が一瞬で来訪者の琴線に触れる。
- ・美しい景色をバックにしたフォト撮影は旅の思い出を提供するほか、朝のジョギングや中島体育センターでのトレーニングなど多様なライフスタイルにも適応する。
- ・公園周辺では富裕層向けホテルの整備やMICE施設の検討が進められており、国際都市として中島公園の役割が一層期待されている。



日本庭園



中島体育センター

関係者の連携に関すること

- ・各指定管理者が様々な活動を行っているが、連携した事業は少ない
- ・連携できる事業アイデアはあるものの、実施には至っていない
- ・利用者が目的の施設に来ても、その後の相乗効果に至っていない
- ・公園と周辺事業者との関係が情報共有程度にとどまっている
- ・中島公園地域コミュニティ推進協議会※10が機能を十分に発揮していない

5 コンセプト・公園のあり方

◀ 歴史が紡いできた魅力の継承と新しい時代への呼応 ▶

中島公園は、札幌都心部に位置する恵まれた立地と広大な水辺や緑の存在から、市民の貴重なオアシス空間となっている。

公園がつくられてから100年以上もの歴史の中で、時代の要請に応える形で様々な施設や機能が整備・更新され、今日に至っている。札幌の歩みとともに寄り添ってきたこの長い歴史が、中島公園に歴史的・文化的資産の集積をもたらし、公園の大きな特長となり、風格を高めてきた。長岡安平の設計思想は現在も色あせていない。自然との調和を図りつつ歴史や芸術文化が息づく公園の姿は、未来に継承しなければならない。

近年、公園周辺ではMICE施設の整備計画があるほか富裕層向けホテル等の建設が進んでおり、国内外からの来訪者の増加が想定されるなど、取り巻く環境が大きく変わりつつある。

中島公園はこのような動きにも呼応しながら、市民に愛され、札幌が世界に誇るシンボル公園の一つとして、少しずつ進化を続けていく。

6 目指す方向性

方向性1 四季折々のみどりが彩るオアシス空間

中島公園は、都心部では貴重となる広大な緑地を持ち、豊かなみどりに存分に触れられる環境である。水と緑の景観は、四季折々に姿を変え、訪れる人を楽しませてくれる。

このような環境・景観を将来にわたって守り、育てるとともに、利用者が立ち寄りやすく、安全・安心に楽しむことができるオアシス空間として、公園づくりを進めていく。

方向性2 伝統と風格に相応しい設えやおもてなし

中島公園は、明治期に「池泉回遊式庭園」として整備されて以来、様々な変遷を経ながら、長い年月をかけて現在の設えとなった。しかし、繁華街すすきのとつながる北入口広場は公園の顔としては寂しく、一部の建物で老朽化が進む。また、園内には情景と調和しているとはいいがたい建物もある。

今後は、周辺動向と歩調を合わせつつ**民間活力の導入も視野に入れ**ながら、伝統と風格に相応しい設えでおもてなしを提供する。

方向性3 市民や観光客が集う交流・賑わいの場

中島公園で開催される催事・イベントは、市民にとって大事な娯楽のひと時であり、まちに活気を生み出している。

古くから芸術・文化やスポーツの場として親しまれ、子どもたち**や若者で賑わいをみせるとともに居場所の役割も果たすなど、多様な機能を発揮している。**

引き続き**市民に親しまれ、**観光客も楽しめる活動を後押しし、交流・賑わいが生まれる取組を推進していく。

方向性4 あふれる魅力を効果的に伝える情報発信

中島公園は、四季折々のみどり、歴史、芸術・文化など様々な魅力を有し、多彩な催事・イベントが開催されるほか、園内の施設では各種コンテンツを提供しているが、多岐にわたる情報が効果的に伝わっているとは現状いいがたい。

これまで以上に適時的確に伝わる**受け手重視**の情報発信を行うとともに、中島公園の魅力が認知され、愛着を深めてもらえるような取組を推進していく。

方向性5 新しい時代の管理運営

園内の施設ではそれぞれ様々な取組を行っているが、施設ごとに指定管理者が異なり、相乗効果には至っていない。公園周辺の事業者との関係も、情報共有程度にとどまっている。

未来へ魅力を継承し新しい時代に呼応していくためにも、周辺を含めた公園全体の**連携・協働**体制の構築を図るとともに、市民と**協働して公園づくりを行い、**災害時にも円滑に**対応**できる管理運営を目指す。

7 取組の方向性



- 1-1 うるおいと安らぎのあるみどり環境の保全・創出
- 1-2 ゆっくりとひと時を過ごす憩いの場の提供
- 1-3 誰もが歩いて楽しめる回遊性の向上



- 2-1 公園の顔となる北入口広場の改善
- 2-2 公園の情景に調和する施設の整備・更新
- 2-3 多種多様な方々を歓迎するおもてなし



- 3-1 多彩な催事・イベント会場の提供
- 3-2 芸術・文化活動やスポーツの推進
- 3-3 **子どもや若者が集う居場所づくり**



- 4-1 様々な媒体を活用した適時的確な情報発信
- 4-2 絶景を活かしたロケーションの提供
- 4-3 公園への愛着を育む機会の創出



- 5-1 **園内各施設間の連携・協働**
- 5-2 周辺事業者との連携・協働
- 5-3 **市民との協働**とコミュニティの醸成
- 5-4 災害時に備えた安全・安心の取組

方向性1 四季折々のみどりが彩るオアシス空間

1.1 うるおいと安らぎのあるみどり環境の保全・創出

5,000本あまりの樹木や日本庭園、菖蒲池など、都心部にある貴重なみどり環境として、市民にうるおいと安らぎを提供してきました。この環境を適切に維持・管理し、適度に間伐を行いながら、質の向上を図っていきます。また、樹木の過密化・大径化による利用者の立ち寄りにくさを改善するため、将来的な施設更新等と併せて光を取り入れた整備を検討します。



- 【想定取組】
- ・みどりの適切な維持・管理による質の向上
 - ・**[長]**園内樹木の整理

1.2 ゆっくりとひと時を過ごす憩いの場の提供

中島公園には様々な魅力がある中、最も多い利用目的は「散歩や休養」であり、昔から市民の憩いの場としてその役割を果たしてきました。2050年には市民の約4割が65歳以上と推計され、ゆっくりと安心して過ごせる場がより重要となることから、ベンチやテーブル等のある休憩場所の整備や、トイレを更新する際にはユニバーサルトイレの導入を検討します。



- 【想定取組】
- ・**[中]**園路におけるたまりスペース、休憩場所の検討
 - ・**[中]**ユニバーサルトイレへの更新

1.3 誰もが歩いて楽しめる回遊性の向上

四季折々のみどりを観賞し、鳥のさえずりを聞きながら、約23万㎡の園内を歩いて楽しめるのが中島公園です。一方、散策路がわかりづらい、案内板・誘導サインが気づきにくい、**池周辺の柵が車いす利用者の目線と重なり池が見えない**といった声も上げられています。これらの改善を検討し、誰もが安心して利用できるように回遊性の向上を図ります。



- 【想定取組】
- ・**[長]**散策路の改善
 - ・サイン等の改善
 - ・**[中]**ユニバーサルの視点に配慮した動線の整備

方向性2 伝統と風格に相応しい設えやおもてなし

2.1 公園の顔となる北入口広場の改善

中島公園入口は時代とともに変遷してきましたが、現在の公園の顔は、駅に直結し繁華街すすきのとつながる北入口広場といえます。しかし、顔としては寂しい印象があり、公園情報を伝える機能もないのが現状です。隣接地ではMICE施設の整備計画等があることから、**周辺動向と歩調を合わせて関係部局と調整を続け、札幌駅前通との接続やイチョウ並木等を重視した**相応しい設えを検討します。



- 【想定取組】
- ・**公園の顔に相応しい**設えの検討
 - ・パークセンター※11（インフォメーションセンター）機能の検討

2.2 公園の情景に調和する施設の整備・更新

都心部にあり交通の利便性が高い中島公園は、時代の要請に応じて様々な施設が入れ替わり整備されてきました。現在も幅広い分野の施設が建ち並びますが、一部の建物は公園の情景に溶け込んでおらず、老朽化もみられます。環境負荷※12低減の観点から、適切に修繕・補修等を行っていきますが、整備や更新に際しては、**藻岩山への眺望や菖蒲池等をはじめとした公園の情景との調和を図ります。**



- 【想定取組】
- ・施設の修繕・補修等
 - ・**[長]**公園の情景と調和した施設整備

2.3 多種多様な方々を歓迎するおもてなし

市民に親しまれながら100年以上が経過する中、日本庭園をはじめとした風情のある特有の光景は、海外からの来訪者も魅了しています。公園周辺の動向から、中島公園は国際都市としての役割が一層期待されていますが、園内は多言語化※13に十分対応しているとはいえず、飲食機能の不足も否めないところです。市民や観光客を温かく迎えるおもてなし機能の強化を図ります。



- 【想定取組】
- ・公園情報の多言語化
 - ・公園に相乗効果を創出する飲食機能の導入検討

方向性3 市民や観光客が集う交流・賑わいの場

3.1 多彩な催事・イベント会場の提供

明治20年に北海道物産共進会が開催されて以来、現在も大規模なイベントから催事まで四季を通じて行われ、市民や観光客が集う交流・賑わいの場となっています。特に北海道神宮例大祭（札幌まつり）では、多数の露店が園路に並び、子どもからお年寄りまで埋め尽くしています。今後も多くの方が安全・安心に楽しめる多彩な催事・イベント会場として提供していきます。



- 【想定取組】
- ・多彩で安全・安心な催事・イベント会場の提供
 - ・指定管理者による自主事業の実施

3.2 芸術・文化活動やスポーツの推進

芸術・文化の拠点として、各施設ではそれぞれの特長を活かしたプログラムを展開しています。また、古くからスポーツの場としても知られていますが、ジョギングコース、ウォーキングコースとして利用されるほか、冬季は歩くスキーコースとしても定着しています。引き続き、芸術・文化の拠点及びスポーツの場として、各活動の振興を図っていきます。



- 【想定取組】
- ・各施設によるプログラムの展開
 - ・芸術文化活動・スポーツの場の提供

3.3 子どもや若者が生き生きと過ごせる居場所づくり

夏季の鴨々川水遊び場は子どもたちで賑わい、日本初の公設である中島児童会館は遊びや交流を通して居場所の役割を果たしています。少子化や共働き世帯の増加など社会構造の変化に伴い、子どもや若者が安心して自分らしく過ごせる環境が一層求められています。将来的な施設更新等と併せてレクリエーション機能の充実を図るとともに、気兼ねなく滞在できる空間形成を検討します。



- 【想定取組】
- ・**[長]**遊具の配置再編・質の向上
 - ・子どもや若者が気兼ねなく滞在できる空間形成の検討

方向性4 あふれる魅力を効果的に伝える情報発信

4.1 様々な媒体を活用した適時的確な情報発信

様々な魅力を有する中島公園ですが、残念ながらその良さを十分に伝え切れておらず、園内の各種情報を全体的に網羅した発信もない状況です。今後はウェブサイト※14やSNS※15、回遊マップなど、情報媒体の特性に応じた効果的な活用方法を検討の上、市民や観光客が中島公園の良さを理解し、興味を示し、訪れたいくなるような受け手重視の発信を適時的確に行っていきます。

【想定取組】

- ・WEBやSNS、回遊マップなど情報媒体の特性に応じた情報発信
- ・園内・周辺施設とのイベント情報の共有、各施設利用者への情報提供



4.2 絶景を活かしたロケーションの提供

公園利用申請件数を目的別に見ると、商用写真撮影等の景観目的が群を抜いて多く、中島公園の景観は企業からも高い評価を得ています。昨今は個人による撮影・発信も大きな影響力があり、中島公園は多くの絵になる「映えスポット※16」を提供できることから、公園のルールに理解をいただきつつ、企業・個人の撮影・発信に積極的に協力していきます。

【想定取組】

- ・フィルムコミッション※17（映画・テレビ・CMなど）への協力
- ・「映えスポット」の情報発信



4.3 公園への愛着を育む機会の創出

中島公園は、その豊かなみどり環境から、アオサギやアカゲラ、シマエナガなど、都心部では見かけることが珍しい野鳥のほか、キタキツネやエゾリスなどの野生動物が見られ、観察会が開催されています。また、遠足や野外学習、写生会など、教育活動の場としても利用されています。こうした機会は公園への愛着形成の契機となることから、更なる機会創出につながる情報発信を行っていきます。

【想定取組】

- ・野鳥観察会、生き物観察会等の実施
- ・ガイドツアーの実施
- ・教育活動、生涯学習の場の提供



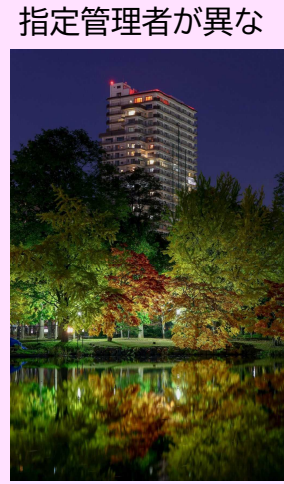
方向性5 新しい時代の管理運営

5.1 園内各施設間の連携・協働

園内の各施設では様々な取組を行っていますが、指定管理者が異なり、連携した事業は少ない状況です。中島公園全体の魅力向上に取り組む上では、主導・統括するマネジメント体制が重要となります。今後は各施設と連携した実証実験を繰り返し実施し、連携を強化しつつ課題等の整理・検証を行い、その結果を踏まえて実効性のある連携・協働体制の構築を図ります。

【想定取組】

- ・園内各施設と連携した実証実験の実施
- ・園内各施設間の連携・協働体制の構築



5.2 周辺事業者との連携・協働

中島公園周辺には宿泊施設や飲食店など様々な事業者がいますが、公園との関係は情報共有程度にとどまっています。公園全体の魅力向上に取り組む上では、周辺事業者及びその利用者との関わりも非常に重要となります。園内各施設による実証実験にあたっては、周辺事業者にも協力を得たうえで実施し、周辺事業者も含めた連携・協働体制の構築を図ります。

【想定取組】

- ・周辺事業者の協力を得た実証実験の実施
- ・周辺事業者との連携・協働体制の構築



5.3 市民との協働とコミュニティの醸成

中島公園で行われる催事は市民主催のものも多く、美しい美観を誇る花壇は市民ボランティアによって支えられています。公園を利用するだけではなく、何らかの形で管理運営に参画し、楽しみながら一緒に活動してもらうことは、コミュニティの醸成にもつながっていきます。市民と協働しながら公園づくりを行うとともに、公園を通じてコミュニティの醸成を図っていきます。

【想定取組】

- ・市民活動の場の提供
- ・公園ボランティアとの連携・協働



5.4 災害時に備えた安全・安心の取組

公園の重要な役割に防災機能があります。札幌市内の公園は地震発生時の一時避難場所となっており、中島公園は大規模火災発生時の緊急避難場所にも指定されています。また、昨今は全国的に集中豪雨の被害も多数発生しています。災害に備えて関係機関と円滑に連携・協力できるよう取り組むとともに、集中豪雨対策として周辺への被害を抑制する流域貯留施設※18を整備するなど、防災機能を高めます。

【想定取組】

- ・災害時に備えた関係機関との連携・協力
- ・流域貯留施設の整備



◎ 今後の取組にあたって

- 中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想では、北入口広場及びその隣接地を「重点再整備エリア」とし、「MICE・ホテル施設と調和した魅力的な空間」を創出することとしている。これを踏まえ、本プランにおいても、公園周辺のまちづくりや開発プロジェクトと歩調を合わせながら推進し、エリア全体に相乗効果を創出していく。
- 開発プロジェクトについては、現時点で構想・検討段階の事柄が多く、今後、内容やスケジュール等が明らかになってくるため、引き続き関係部局と調整を続けつつ、本プランで想定した取組はできるものから実施していくこととする。
- 特に公園関係者が連携する実証実験は、継続して行うことにより、課題等の整理・検証の結果を蓄積できることに加え、関係者間の連携強化や中島公園の更なる魅力の掘り起こしにもつながることから、先行して取り組んでいくものとする。
- なお、本プランはソフト面を中心にまとめたものであるが、更なる魅力向上を図る上では、施設の整備・更新による機能向上などハード面も重要であることから、各施設の更新時期等を見据えながら、関係部局とともにハード面を含めた将来的な中島公園の全体像を整理することとする。

※14 ウェブサイト：インターネット上において文字や図表、画像等により様々な情報を公開又は閲覧できるシステム
 ※15 SNS：social networking serviceの略。インターネット上において人々がつながり情報共有するためのプラットフォーム
 ※16 映えスポット：SNSなどで話題になるような写真映える場所

※17 フィルムコミッション：映画やテレビドラマ、CMなどの制作を誘致し、撮影が円滑に進行するよう支援する組織
 ※18 流域貯留施設：洪水被害を防止・軽減するため、地面を部分的に掘り下げ、雨水を一時的に貯留して河川へ一度に流れ込まないようにする施設

◎ 大通公園・中島公園あり方検討会 委員名簿

敬称略 令和6年6月現在

	氏 名	役 職	プロフィール
学 識 経 験 者	あいこう てつや 愛甲 哲也	北海道大学大学院農学研究院教授	専門：造園 公職：第22次緑の審議会会長、環境審議会委員
	いけのうえ しんいち 池ノ上 真一	北海商科大学 観光産業学科教授	専門：観光まちづくり 公職：「札幌市時計台」及び「札幌市旧永山武四郎邸及び札幌市旧三菱鉱業寮」指定管理者選定委員会委員
	おざさ たかお 小篠 隆生	(一社)新渡戸遠友リビングラボ理事長	専門：都市計画、建築計画 公職：第20次緑の審議会委員、北海道大学大学院工学研究院非常勤講師
	しいの あきお 椎野 亜紀夫	札幌市立大学デザイン学部教授/デザイン学部長	専門：都市公園、遊び場 公職：札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会委員、都市計画審議会委員
	たかの しんえい 高野 伸栄	北海道大学大学院工学研究院土木工学部門 教授	専門：交通計画、都市地域計画、建設マネジメント 公職：札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会委員
	もり ともこ 森 朋子	札幌市立大学デザイン学部准教授	専門：都市計画、景観 公職：景観審議会委員、中高層建築物紛争調整委員会、屋外広告物審議会、第23次緑の審議会委員、はぐくみの軸強化方針検討会委員
	よしおか あきこ 吉岡 亜希子	北海道文教大学人間科学部地域未来学科 教授	専門：社会教育、子育て支援 公職：札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会委員、札幌市市民まちづくり活動促進テーブル委員
	いりさわ たくや 入澤 拓也	(一社)北海道 I T 推進協会 会長 エコモット(株) 代表取締役	専門：IT・情報 公職：札幌市CDO補佐官、中小企業振興審議会委員、さっぽろ未来創生プラン推進有識者会議委員
民 間	りゅう こうざぶろう 笠 康三郎	(有)緑花計画 代表取締役	専門：都市基盤の緑地計画・設計、自然環境の保全・再生 公職：札幌市大通花壇コンクール審査員、北海道大学農学部非常勤講師
	いしかわ ひろたか 石川 啓貴	国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 公園利用推進官	
行 政	かさまつ しゅうご 笠松 周悟	国土交通省 北海道開発局 事業振興部 都市住宅課 都市事業管理官	

◎ 検討の経過

年	月	札幌市緑の審議会	大通公園・中島公園あり方検討会
令和5年 (2023年)	9月	■第94回 ・検討開始の報告	
	11月		□第1回 ・大通公園：大通公園の魅力と機能の向上 ・中島公園：今あるみどりや芸術・文化を磨き高める
	12月		□第2回 ・大通公園：「いこい」と「にぎわい」の両立 ・中島公園：新たな機能により魅力を向上する
令和6年 (2024年)	3月		□第3回 ・大通公園：沿道と連携したみどりの軸の強化 ・中島公園：周辺エリアも含めて活性化させる
	5月	■第95回 ・検討状況の中間報告	
	6月		□中島公園 現場見学会
	7月		□第4回 ・大通公園：大通公園のあり方の検討について ・中島公園：中島公園の現場視察を踏まえた検討について
	10月		□第5回 ・大通公園：大通公園のあり方（素案）について ・中島公園：中島公園魅力アッププラン（素案）について
令和7年 (2025年)	1月		□第6回 ・大通公園：大通公園のあり方（案）について ・中島公園：中島公園未来への魅力継承プラン（案）について
	3月	■第97回 ・案の報告	